

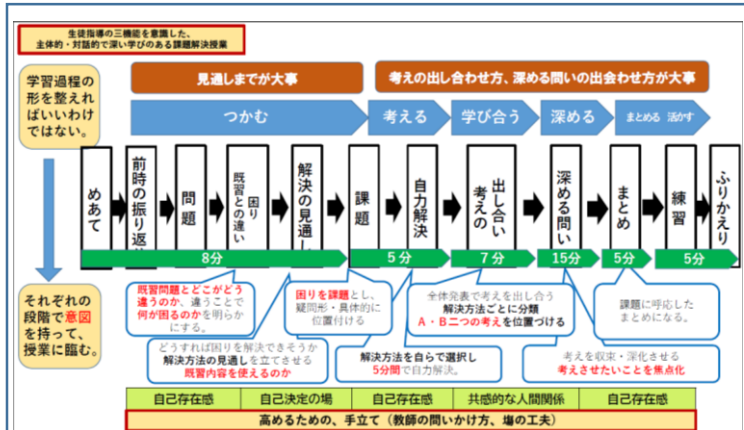
⑰校内研修などによる授業改善

取組の具体①

全職員で学びのベクトル合わせを図り、 全学年共通のプランを共通理解。

(PDCAサイクル～Plan～)

- 全職員による児童の実態把握と課題の捉え。
- 目指す子ども像、育成すべき資質能力の明確化、具体的取り組みの設定。
 - コミュニケーション能力の育成。
 - 「対話」のある生徒指導の3機能を意識した課題解決型の授業展開を研究の柱とする。
- 「対話」のある課題解決型授業展開を全学年共通の授業ベースとする。



本校における生徒指導の3機能を意識した課題解決型学習過程

取組の具体②

教職員の授業実践・改善を繰り返し、 授業力のスキルアップを図る。

(PDCAサイクル～Do・Check・Action～)

- 授業力向上アドバイザーを活用し、指導助言、全職員への講和。「対話」のある課題解決型の授業をより深化させながら実践を積み重ね。
- 校内研修での提案授業で、「対話」のある授業について意見交換。よりよい手だての模索。
- 板書指導案で児童の課題解決型思考の流れを意識した授業作り。

6月 28日 (3)限 5年 1組 授業案 基本 洋平

教科・単元: 算数 単元: 小数のわり算

単元の目標: 除算が小数である場合の除算のやり方について理解し、計算することができるように、図や式などを用いて計算のしかたを覚えるが重点になる。また、その過程において、計算のしかたを系統的に授け、よりよい方法を自ら見つけ出すことができるように指導する。

本時のねらい: 16mの代金が96円のリンゴが買えます。このリンゴ1mの代金をいくらで買えますか? わる数が小数の場合(96÷1.6)の計算のしかたについて、わる数を10倍の整数にし、商も10倍にする(0.1m分の代金)から求める方法、わる数を10倍にし、その商も10倍する(0.1m分の代金)から求める方法があることがわかる。

評価基準: ①商と余りの関係を除算が小数である場合の除算の意味や計算のしかたを、数直線をもとに、わる数10倍の整数について考えられる。(発言・ノート)...

支援・配慮: 除算を10倍した時にわる数も10倍する理由が分からない児童には、整数の場合で考えさせるようにする。

板書内容: 96 ÷ 1.6 = 60. 96 ÷ 16 = 6. 960 ÷ 16 = 60. 16m ÷ 1.6m = 10. 960 ÷ 16 = 60. 96 ÷ 1.6 = 60. 960 ÷ 16 = 60.

授業過程: 見通し: わる数が小数の計算のしかたを覚える。 問題: 16mの代金が96円のリンゴが買えます。このリンゴ1mの代金をいくらで買えますか? 解決の見通し: わる数を10倍する。 自力解決: 16m ÷ 1.6m = ? 考えの出し合い: 16m ÷ 1.6m = 10. 96 ÷ 1.6 = 60. 960 ÷ 16 = 60. 16m ÷ 1.6m = 10. 960 ÷ 16 = 60. 96 ÷ 1.6 = 60. 960 ÷ 16 = 60. 16m ÷ 1.6m = 10. 960 ÷ 16 = 60. 96 ÷ 1.6 = 60. 960 ÷ 16 = 60.

取組の具体③

生徒指導の3機能と「対話」 を重点化し、意図を持って授業に臨む。

- 思考・判断・表現を繰り返す授業展開を仕組む。
- 自己決定の場、自己存在感、共感的な人間関係を育む場を設定する。
- 場の工夫
 - ・全員が考えを持てるための解決の見通し。
 - ・他の考えを自ら解釈する。
 - ・深める問いを受けてペアで考える等。

